

【冬期間に於ける水抜き方法】

冬期間、水道管の凍結のおそれがある場合や長期間不在にする場合に行ってください。(水抜き操作を行わず修理が発生した場合は、自己負担となります。)

《 水抜き操作方法 》

※実際の水抜き操作方法は、写真で解説しております。

2枚目 (No.2) をご覧ください。

○水抜き操作後の補足事項

- 便 所 便器ロータンの洗浄レバーにてタンク内の水を流し、タンク内の水を空にして下さい。
- 洗濯機 洗濯機に接続の給水ホース類は、一度取外してホース内の水を抜いて下さい。
洗濯水栓は、バケツ等にて水を受け確実に水を抜いて下さい。

※水抜き完了後は、事故防止のため、各蛇口を閉めておいてください。

《 通水操作方法 》

※実際の通水操作方法は、写真で解説しております。

3枚目 (No.3) をご覧ください。

○通水時の注意事項

- 室内の各蛇口は必ず「**全閉**」にして下さい。
- 通水操作を行った後、室内の蛇口は**ゆっくり開き**、水道管内の空気を抜いてください。(いきなり蛇口を開くと水と空気が飛び散る場合がありますので注意して下さい。)
- 濁った水が出た場合は、しばらく流してからご使用ください。

《 給湯器の凍結防止について 》

※4枚目 (No.4) をご覧ください。

水抜き操作手順

NO. 2



設置場所：台所



1・電源をONにしてください。

2・**押** ボタンを押して水抜きランプ（赤）を点灯させて下さい。
（点滅中は水抜き中です）



3・水栓を開けて水を抜いて下さい。
（台所・手洗器・浴室）



- 1・水抜き時に開けた水栓を閉めて下さい。
(台所・手洗器・浴室)



- 2・電源をONにしてください。

- 3・**押** ボタンを押して通水ランプ（緑）を点灯させて下さい。
(点滅中は通水中です)



- 4・各水栓を開けて空気を抜いてください。

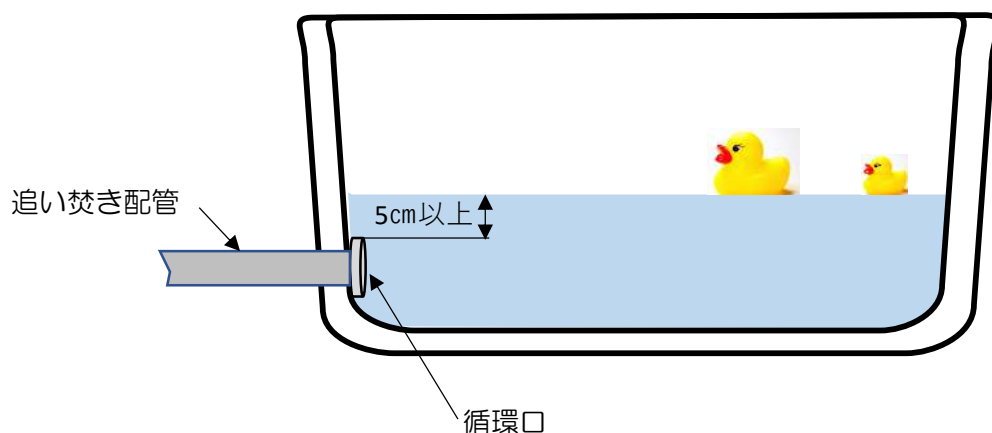
給湯器の凍結防止について

お住まいのお部屋には、給湯器が設置されております。凍結による故障は自己負担となりますので、先の水抜き操作に加え、以下のことをお守りください。

- ① 冬期間中は、長期不在の場合も、宅内の契約ブレーカーを切らないでください。
また、分電盤内に給湯器及び凍結防止ヒーターの表示があるブレーカーは、絶対に切らないでください。
- ② パイプシャフト（水道メーターがあるところ）に、凍結防止ヒーターがある場合は、コンセントが差し込まれているか確認し、抜けている場合は差し込んでください。
- ③ 給湯器のコンセントも抜かないでください。（給湯器本体のヒーターが作動するため）

※ 追い炊き機能の付いている浴槽は、循環口より5cm以上になるように水を溜めておいてください。（残り湯で構いません）

∴給湯器が外気温を感知して、自動で追い炊き配管内の水を循環し、凍結を防止します。



- その他詳細については、各取扱い説明書をご確認ください。
- 電力の契約解除などを行う際には、事前に住宅センターにもお知らせください。